



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会場 広島国際会議場 **ダリア**

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会 会場に
「ISO45001／JISQ45100認証取得の無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①ピープルファーストがかなえた！ 全員参加の安全活動で見えてきた 安心安全の道筋 (株) 資生堂 大阪工場 管理部 安全・ウェルネスグループ 松井 孝憲	労働災害増加傾向を契機に工場全体の取り組みとして全従業員でニアミス活動を行った。リスク抽出→リスク周知→危険源の改善に取り組み、休業災害0を達成した。また一過性にならないよう同活動を仕組み化することでISO45001認証取得に寄与した。
9:50 ～ 10:10	②車両屋根上点検時の安全性向上 東急電鉄(株) 車両部 長津田検車区 技術員 石塚 健太郎	電気鉄道の検査において、車両屋根上の集電装置(パンタグラフ)の点検は必須項目である。従来の検査手法では屋根上に昇って直接状態を確認しており、転落のリスクと作業負担が課題であった。そこでGoProを導入し屋根上に昇ることなく正確な点検を行える手法を確立した。
10:10 ～ 10:30	③重量物を取り扱う金型メンテ保全 職場の安全性向上 (株) テクニカ 加古川製造部 鋳造課 班長 白井 将太	「誰でも安全に働ける職場づくり」を目指し、作業性を重視した職場風土を変革し安全意識を向上させ、今まで「当たり前」に行っていた作業を含む自職場に潜む危険有害要因を抽出し、リスクアセスメントの手法を活用して、リスクレベルを低減し、重大災害の防止に成功した。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:00	④階層分析法(AHP)によるエラーの リスク評価および対策案選定の試行 (地独) 北海道立総合研究機構 工業試験場 ものづくり支援センター開発推進部 連携推進グループ 研究主幹 神生 直敏	リスク評価に不慣れな評価者でも、人的ミスに起因するエラーのリスク評価とその対策案の選定を実施できるよう、階層分析法(AHP)による「優先的に対処すべきエラー」の選定と「具体的な対応策」の選定について試行し、道内の中小製造業等で活用した事例を紹介する。
11:00 ～ 11:20	⑤危険源に着目したリスクアセスメントへの 変革を起点としたOHSMSの質的改善 マツダ(株) 安全健康防災推進部 アシスタントマネージャー 松原 良一	外部環境の変化に呼応して従来になかった因子が自動車業界で働く人を取り巻き始め、安全と健康の確保が一層難しくなっている。そこで危険源を網羅的に捉え効果的かつ効率的にリスクを低減するPDCAサイクルを社内体制と合わせて再構築しようとしている取り組みを報告する。
11:20 ～ 11:40	⑥誰でもできる安全衛生監査 日本製鉄(株) 本社 安全防災推進部 安全推進室 部長代理 佐野 嘉一	安全衛生活動の有効性や安全関係法令の順守状況を評価するためには安全衛生監査を行うことが有益であるが、小規模な事業所においては安全関係法令の知見や安全衛生管理の経験の浅い担当者が監査を行う場合がある。本報では経験の浅い担当者でも適切に監査できる手法を紹介する。
11:40 ～ 12:00	⑦応援者と挑む 技量に頼らない働きやすい 職場づくり ～大型ダンブ組立リスク低減活動～ (株) 小松製作所 茨城工場 生産部 組立課 中型組立センタ 第三中型組立班 リーダー 大内 卓	過去最大の増産により経験が浅い人員が急増する事で今後起こりうる問題を先読みし、他企業応援者と共にリスク評価に新たな項目を加えリスクを再評価。メカニズムを解析し改善した事で技量に頼らず誰もが安全に作業できる「技量レス化」を実現し、リスクを未然防止した活動である。



12:00~13:00 昼休憩60分

13:00 ~ 13:30	特別報告 ISO45001改訂のポイント ～どこが変わるの？ ISO45001～ 中央労働災害防止協会 認証事業執行 責任者 安全衛生マネジメントシステム審 査センター 所長 ISO/TC283日本代表 エキスパート 齊藤 信吾	現在、ISO45001はISO/TC283にて改訂作業が進められているが、主 要なポイントと今後のスケジュール、及び世界各国におけるISO45001認 証数の傾向を紹介する。また、令和8年度で終了するJISHA認証事業を 総括する。
13:30 ~ 13:50	⑧ヒヤリハット調査委員会（ヒヤ調） 発足 ～そして撲滅へ～ 東急電鉄（株） 運輸司令所 鉄道事業本部 運輸部 副司令 吉田 明華	作業の安全性向上を目的とした「ヒヤリハット調査委員会」略して「ヒヤ調」 を発足。体験した「ヒヤリハット」・想像の事例「もしやハット」・ミスを未 然防止した「グッジョブ」をユーモアに富んだツールにまとめ共有した結果、 ミス発生件数減少に成功。この活動内容を紹介する。
13:50 ~ 14:10	⑨安全活動のレベル向上と統一化を 目的とした社内データベースの構築 第一工業製薬（株）大潟工場 生産本部大潟工場総括課 課長 南保 智也	今までKYT、ヒヤリハット及びRA活動は3工場独自活動であったため、 個人や工場間で知識・認識のバラつきがJISQ45100取得後の課題となっ ていた。これを解消すべく3つの活動を俯瞰し且つ相互リンクさせた社内 DBの構築により、活動のレベル統一と向上を目指した。
14:10 ~ 14:30	⑩建設業におけるICT環境下での リスクアセスメント活用の提案 日本認証（株）第1事業企画部 担当部長 三原 泰司	建設現場におけるリスクは、作業環境、建設機械、建設機械、人の作 業方法などによって大きく変動する。高度に発達したICT環境を活用し、 設計・施工計画・施工の各段階に応じたリスクアセスメントについて考察 し、現場管理を含めた合理的なリスクマネジメント方法を提案する。
14:30~14:40 休憩		
14:40 ~ 15:00	⑪2転炉炉下作業の安全化 JFEウエストテクノロジー（株） 鉄道部鉄道Gr 鉄道部員 林 孝行	鉄道Grでは溶鋼搬送及び、熱滓の搬送を行っている。炉下フロアに漏 れた熱滓を回収し散水冷却する際、熱傷や熱中症リスクがあったが、散 水作業の遠隔無人冷却化と遠隔監視化を検討改善しリスク回避と有害粉 じん作業の撲滅を現場の総力を結集して職場DIYで問題解決した。
15:00 ~ 15:20	⑫Vision ZeroとISO45001認証取得 推進によるIDECの安全文化構築 IDEC（株）福岡事業所 ASIA生産本部 Vision Zero 安全推進室 室長 福塚 浩史	「世界一安全・安心・ウェルビーイングを追究・実現する企業になる」目標 を掲げ、Vision Zero活動、ISO45001認証取得、全員参加の安全文化 構築活動より特徴的な取り組み例と、Vision Zero 7ゴールデンルールを 活用した到達度チェック状況を紹介する。
15:20 ~ 15:40	⑬チャレンジルールアセスメント ～守りやすさの定量化～ （株）小松製作所 大阪工場 生産技術部 コンボグループ 工具センタ 一般従業員 入江 真琴	自工場の過去災害の多くは「ルールを守らないショートカット災害」である 事に着目。既存/新規のルールが、如何に守れる＝守りやすいルールであ るかを見える化する為、人が本能的に好む「ラクチン・カンタン・手間いらず」 を定量的指数として新安全評価方法を確立した事例である。
15:40 ~ 16:10	特別報告 転倒災害におけるすべりの評価・ 対策について （独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 リスク管理研究グループ 研究員 柴田 圭	休業4日以上労働災害の約4分の1が同一平面での転倒となっており、 その転倒の多くがすべりやつまずきにより発生している。本発表では、転 倒災害防止を考える上で重要になっているすべりについて、摩擦係数によ る評価、および対策方法について述べる。



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	⑭労働安全衛生マネジメントシステム オンライン自己診断のグローバル展開 AGC (株) AGC Europe S.A. Safety Management System Manager 下田 漢佳	AGCでは「AGCグループ労働安全衛生規則」を作成し、グループの全事業に順守を義務付けた。実効性担保のため、オンライン自己診断モジュールを開発し、世界の主要拠点を対象に診断と改善を進めてきた。現在約半数の拠点の診断が終了し、2025年の完了を目指している。
9:50 ~ 10:10	⑮構内危険箇所の改善 コマツカスタマーサポート(株) 近畿四国カンパニー 京都支店 サービス課 メカニックチーム 班長 三角 雅行	支店全体にヒアリングやアンケートを行うことによって改善を繰り返し、支店の敷地内に潜んでいる、見通しが悪いことによる交通事故や滑りやすい路面による転倒リスクのある危険箇所に、標識設置や滑り止め塗料塗布等の対策によって、リスクレベルを二段階低減した事例である。
10:10~10:20 休憩		
10:20 ~ 10:50	特別報告 日本で最初にISO 9001・ISO 45001 を認証取得した社会福祉法人の労働安全衛生マネジメントについて (社福) 松美会 事務局長 辻中 浩司	人材確保が極めて困難な介護・保育の現場において、新たな人材を確保するとともに、今いる人材を定着させるために、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)を活用した、「職員が安全・安心に働くことができる職場づくり」の取り組みは、実効性がある。
10:50~11:00 休憩		
11:00 ~ 11:30	特別報告 軌道事業における、施設の保守 に関するリスクアセスメント 広島電鉄(株) 執行役員 電車事業本部長 東 耕一	広島に路面電車が走り始めて110年余り。危機的な苦難の歴史もありながら、来年は新ルートによる新広島駅への乗入れを控え、新たな時代が訪れようとしている。今回は、施設の基盤となる軌道の保守について、路面軌道ならではの安全対策の取り組みを紹介する。



ダイバーシティ等分科会

会場 広島国際会議場 ダリア

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

11:30 ~ 11:50	①VRを活用した動画による安全教育 コベルコ建機(株) 生産本部 広島事業所 安全衛生環境室 安全指導員 田村 敬一	弊社の安全教育はイラストや写真主体の教材へと発展してきたが、現場は活字離れが進み海外労働者が増加、教育時間の確保には多くの関係者が労力を割かねばならない状況であった。そこで、VRを含む動画と音声読み上げと多言語化により等しく安全教育を受ける機会を創出した。
11:50~12:50 昼休憩60分		
12:50 ~ 13:10	②共創と共生の時代への転換と SDGsの活用と外部認証の活用 大和ハウス工業(株) 技術統括本部 安全部 連携グループ 課長 森 朋仁	安全管理の進化：建設業界における安全管理の新時代を切り開くため、SDGsを軸とした共創共生の取り組みと、外部認証機関の活用を通じて、付加価値のある安全対策を模索し実現。従来の自社中心の対策から脱却し、事故ゼロのその先を目指す手法を紹介する。



ダイバーシティ等分科会

MS・RA

ダイバーシティ等

安全管理①

13:10 ～ 13:30	③エイジフレンドリーな職場を目指して ～高齢者の特性に配慮した職場環境への取り組み～ (株) LIXIL 有明工場 総務課 安全担当責任者 城戸 司	LIXIL全社的に55歳以上の高齢者の災害が増加傾向にある。当事業所ではエイジフレンドリーな職場を目指す為、身体機能計測結果によるリーダーチャートの典型的なパターンに着目し、その職場に合わせた様々な職場環境の改善活動を行ってきた。
13:30～13:40 休憩		
13:40 ～ 14:40	講演 社員が活躍できる環境整備の重要性 ～オタフクソースの理念と様々な取り組みについて～ オタフクソース(株) 代表取締役社長 佐々木 孝富	創業100年を超え事業継続できたのは、理念につながる創業者精神の実践と、社内外の相手を思いやり役立つ為の行動を実践する社員がいて成し遂げられたことである。 そんな社員に会社ができることは何であるか、そのための環境整備の重要性と具体的取り組み、社員の活躍事例を紹介する。
14:40 ～ 15:00	④ベテラン社員全員で取り組む安全・安心・多様性ある職場環境づくり (株) イビデンキャリア・テクノ 保全部 保全課 次長 福富 克典	当社は、50歳以上のベテラン社員が全体の6割を占め、今後さらに増加する予定。過去5年間の労災8件中6件が50歳以上の社員によるもの。ベテラン社員の就労に適した安全基準の整備と、現場の声を反映した働きやすい職場環境づくりを進め、2022年度から無災害を継続中。
15:00 ～ 15:20	⑤ダイバーシティ実現に向けて ～誰もが安全に作業できる作業姿勢改善～ (株) 小松製作所 小山工場 油機製造部 製造第二課 一般 田邊 花梨	私たちの職場は、女性比率20%の職場であるが、女性は一部の工程のみ(受付工程・キット工程)を担当しており、他工程でも女性が活躍できる「誰もが安全に作業できる職場作り」を目標に組立工程の苦渋作業改善を行った。

広島国際会議場 地下2階 ダリア向かい ロビースペースに
「中災防 図書・用品 即売コーナー」開設!
 安全衛生図書・用品を 1割引きで販売します



安全管理活動分科会①

会場 広島市文化交流会館 広島文化学園HBGホール

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①化学の力で作業を変える ～清掃作業の負担を大幅削減～ フタムラ化学(株) 大垣工場 安全環境グループ 係長 高木 亮輔	製造過程において発生する異物の洗浄作業の方法に長年悩まされてきた。清掃作業は従来より人の手で拭拭しながら行っていたが、無理な姿勢による長時間の作業から腰に負担がかかっており、化学的アプローチからその作業方法を改善した。
9:50 ～ 10:10	②車両基地の安全性向上と災害防止策 ～人生と車両基地ではつまずくな!!～ 京王電鉄(株) 鉄道事業本部 車両電気部 若葉台検車区 列検2班 技術主任 本橋 広美	車両基地内における労働災害を防止するため、現場作業者を対象に実施したアンケート結果により、災害が起こる危険性の高い箇所の抽出を行い、リスクアセスメント手法の活用と災害防止策を行うことでリスクの低減を図った。その取り組み内容と成果について紹介する。



安全管理活動分科会①

10:10 ～ 10:30	③現場に寄り添ったLOTOの取り組み AGC (株) 愛知工場 環境安全保安室 安全衛生担当 竹森 英昭	自動車用ガラス製造工程においては調整や品質確認など安全柵内での作業が多く、LOTOが柵内でのオペレーターの事故防止に大きな役割を果たしている。頻度の多い柵内作業でいかにLOTOを確実に実施させるか、作業者目線での改善や対策を実施したので事例を紹介する。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:00	④39年間の休業災害ゼロ継続における安全活動の取り組み 東京ガス (株) 袖ヶ浦LNG基地 総務部 部長付 内山 恵一	当基地は1985年から現在に至るまで約39年間休業災害ゼロを継続している。「安全は攻めて勝ち取る」という理念のもとに、マネジメントシステム構築や安全を優先する文化醸成と安全活動マンネリ化・形骸化防止およびヒューマンエラー防止に向けた取り組み等について紹介する。
11:00 ～ 11:20	⑤安全マイスターによる安全活動支援 ～工事会社のみなさまと一体でゼロ災に挑戦～ 東京電力パワーグリッド (株) 業務統括室 シニア安全マイスター 中島 健一	2018年度に当社の安全管理体制強化を目的に安全マイスターを配置、社長の目となり耳となって現場、経営双方向に関与し、工事会社のみなさまと一体で「気づき」を活かす安全活動をワイガヤで実施中、現場での学びや災害ゼロを自らの手で実現する取り組みについて紹介する。
11:20 ～ 11:50	特別報告 産業安全の現状と課題 ～第14次労働災害防止計画2年目の取り組み等について～ 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課長 安井 省侍郎	産業構造や就業構造の変化に伴い、多様な人材が安心して安全に働ける職場づくりが求められている。労働災害発生状況を踏まえて、皆さまの職場で取り組んでいただきたい安全管理活動について厚生労働省の取り組みとともに紹介する。
11:50～12:50 昼休憩60分		
12:50 ～ 13:10	⑥成形課 類災見直し活動 ～ベテランから若手中心の活動へ～ 日産自動車 (株) 追浜工場 製造部成形課 一般 伊藤 誠弥	類似災害を二度と発生させないため、安全推進員を中心に全員活動として取り組んだ。危険のリスクを顕在化させ試行錯誤しながら対策を実施。活動を通して振り返りを行い安全に対する知識向上や各組員が類似災害を自分事と捉えられるよう工夫して活動した内容である。
13:10 ～ 13:30	⑦駅舎老朽化工事における安全施工の取り組み 仙建工業 (株) 仙台支店 鉄道建築部 仙台鉄道建築出張所 担当所長 千田 雄介	駅工事では与えられた作業条件の中で安全に作業できるように環境を整えることが必要である。夜間作業で行う箇所を少なくし、体の負担が少ない、昼間作業でできるように計画した。また、高所で作業を行うときは、周囲の人の流れ等を確認した上で、適切な落下防止対策をした。
13:30～13:40 休憩		
13:40 ～ 14:00	⑧小規模事業場における自主自立した災害時救護体制の充実 トヨタ自動車 (株) 安全健康推進部 一般 岩長 恵里	東海エリアでは、東海地震・東南海地震・南海地震の発生懸念があり、大規模災害発生時の救護体制の充実の必要性が高まっている。医務職が常駐しない小規模事業場における救護のあり方検討を通じた、救護体制の充実と救護できる人材育成に向けた取り組みを説明する。
14:00 ～ 14:20	⑨ゴライアスクレーン解体工事のICT活用による工期短縮について (株) フルサワ 安全衛生管理室 室長 神田 宗英	千葉造船所休止に伴い弊社は、造船工場棟群及び300tゴライアスクレーン (GC) 2基解体一式を受注した。今回300tGC 2基解体を、弊社が開発した解体技術を採用、1号機GCはICT (カメラ) を活用、2号機GC解体に反映し、工期を1ヶ月短縮することができた。
14:20～14:30 休憩		



安全管理活動分科会①

14:30 ～ 14:50	⑩「職場における腰痛予防宣言！」事業の取り組みと今後の展望 (公社) 日本理学療法士協会 職能推進課 佐藤 愛里	理学療法士が自身の所属施設において腰痛予防策を講じる「職場における腰痛予防宣言！」と題する事業を実施した。実施内容に準ずる施設認定や事例集の作成による参加促進を工夫した。今後はさらなる事業周知の強化と、所属施設外への取り組みを拡げる仕組み作りを目指す。
14:50 ～ 15:40	広島労働局の転倒災害防止対策の取り組みについて 広島労働局 労働基準部 健康安全課長 JFEスチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区) 安全健康室ヘルスサポートセンター 主任部員(係長)	山埜 典文 乍 智之
15:40 ～ 16:25	あぶない！ 靴・床面・動線から転倒リスクをズバリ物申す！ ～岡山県+SAFE協議会～ 岡山労働局 労働基準部 健康安全課 厚生労働技官 日進ゴム(株) 営業一部 (株) 丸五 執行役員 フットウェア事業部 事業部長	植木 一郎 吉田 孝 岡本 幸太郎

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑪鉄道車両用暖房機器の機能確認に伴う腰痛と火傷のリスクを低減する検査装置の開発 東日本旅客鉄道(株) 小山車両センター 主任 小山 和広	鉄道車両のメンテナンス業務の中に、座席下に設置された暖房装置の機能確認がある。従来は作業者が暖房装置に直接手をかざして確認していたが、火傷と腰痛のリスクがあった。今回、サーモカメラと可視カメラを装備した装置を開発し、それらのリスクを減少させることに成功した。
9:50 ～ 10:10	⑫本社横串部門による安全衛生グループガバナンスの強化 (株) フジクラ EHS統括センター センター長 市原 浩之	国内外約90の拠点に対し、本社の横串部門として一体感ある安全衛生管理レベルアップ活動の推進とともにグループガバナンスの強化に取り組んだ。その活動の中で成果のあった、重点施策の展開方法、EHS調査票の導入や各種情報の発信方法、災害報告様式の改良などを報告する。
10:10 ～ 10:30	⑬安全活動の推進によるゼロ災の達成 東邦チタニウム(株) 茅ヶ崎工場 化学品製造・開発部 茅ヶ崎ニッケル粉製造グループ チームリーダー 山口 裕士	当グループは取り扱う物質や設備の性質上、事故・災害の発生頻度が高く、根本的な安全対策が急務であった。今回、モデル安全職場として活動を行う事により、現場での安全に対する意識や自己肯定感が向上し、事故・災害の発生頻度を低減させる事ができたためここに紹介する。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:40	安全行動調査誕生から約四半世紀：パーソナリティ×エラー傾向が示す安全活動のこれから 常磐大学 人間科学部 心理学科 教授 博士(心理学) 申 紅仙	安全行動調査は、パーソナリティ傾向とエラー傾向を調べるための尺度である。本講演では、長年蓄積されてきたデータを再分析し、パーソナリティと安全衛生の関係性について報告する。 また安全行動調査アドバイザーとして調査結果の活用方法や今後の展望についても紹介する。



安全管理活動分科会①

11:40~12:40 昼休憩60分

12:40 ~ 13:10	特別報告 令和6年度日本化学工業協会 安全最優秀事業所 (株)レゾナック彦根川瀬事業所の安全活動 指摘巡視から対話巡視へ、相互啓発による安全な事業所づくりを目指す (株)レゾナック 彦根川瀬事業所 環境安全管理部 工師 藤原 久	当社は2022年に全社安全調査を実施し、2023年から管理者による職場の安全巡視を指摘型巡視から従業員とのコミュニケーションに重点を置いた対話型巡視とするため、巡視方法の基準化・認定教育を実施。管理者意識の変革で相互啓発型の安全な事業所づくりを目指した活動を紹介する。
13:10 ~ 13:30	⑭「重要設備内での重大災害防止」への取り組み (株)ユアテック 会津営業所 工務課 担当 山木 兼	水力発電所耐震補強工事で天井水平ブレース補強作業を行うことから、墜落転落による重大災害の発生が懸念された。また、重要設備の損傷、電力供給支障の危険性が想定された。それらのリスクを排除するため防止対策を立案・実施し、無事故無災害で竣工を迎えることができた。
13:30 ~ 13:50	⑮高速道路4車線化工事における安全の確保 九鉄工業(株) 北九州本店 土木課 課員 谷口 勇斗	東九州自動車道では高速道路の4車線化を進めている。本工事では4車線化の事業開始となる、苅田一行橋間の一部の本線の拡幅を行った。本線の拡幅に伴い、本線切替作業が3回あり、時間もシビアであったためどうすればスムーズかつ安全に切替作業ができるか、そこに注視した。
13:50~14:00 休憩		
14:00 ~ 14:20	⑯鉄道林作業における倒木災害の再発防止 ～JR北海道の取り組み～ 北海道旅客鉄道(株) 旭川支社 北見保線所 施設技術係 熊谷 卓	当社では、吹雪等から列車の運行を守るため鉄道林を管理しているが、鉄道林での玉切り作業中に強風が原因で立木が倒れ、従事員2名が死亡する災害が発生した。本発表では、この災害を受けて講じた対策を紹介し、同種災害の再発防止の具体的取り組みについて報告する。
14:20 ~ 14:40	⑰シナリオ型訓練からブラインド(シナリオレス)訓練へ 東武エンジニアリング(株) 南栗橋軌道区久喜支区 区員 中川 翔平	これまで、事故障害・災害対応能力向上のため、シナリオ型訓練により「知識・技能」を磨いてきた。当社ではさらに、異常時に必要な「判断力」を身に付けるため、ブラインド(シナリオレス)訓練を取り入れている。訓練の概要・成果・課題について報告する。

中災防賛助会員 入会のご案内



賛助会員にご入会いただくことで各種特典がご利用できます

- 「全国産業安全衛生大会」のご優待
- 教育研修・専門技術の利用が会員料金 など



これらの特典は一例です。詳しくは **中災防賛助会員** で検索!

お問合せは 教育ゼロ災推進部 03-3452-6186 kaiin@jisha.or.jp



安全管理活動分科会①

14:40 ～ 15:10	特別報告 勤務間インターバル制度の利点と課題 (独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 人間工学研究グループ 主任研究員 池田 大樹	1日の勤務終了後から翌日の出社までの間に一定時間以上の休息時間を設ける勤務間インターバル制度の導入が事業主の努力義務とされている。本講演では、勤務間インターバルに関する研究を概説し、科学的根拠に基づく勤務間インターバルの利点と課題について考察する。
15:10 ～ 15:30	⑱交通事故分析からみた未然防止対策 (株) ダイフク 滋賀事業所 安全管理本部 安全推進部 滋賀グループ 社員 橋本 雄貴	当社では、交通事故撲滅を目標とした活動を行っており、業務及び通勤時の自動車事故を様々な角度から分析し、その傾向から見えた効果的な事故撲滅対策について発表をする。

安全管理①

安全管理②



安全管理活動分科会②

会場 広島国際会議場 コスモス

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①MT作業時の姿勢改善 ～腰痛予備軍ゼロへ～ JFEスチール(株) 東日本製鉄所(京浜) 厚板部厚板工場精整職場 リーダー 武藤 雅貴	職場の高齢化が進む中で作業姿勢に着眼し改善に取り組む。工夫した点は改善後に新たなリスクを抽出し都度解決に結びつけたことである。苦勞した点は固定観念に捉われ発想の転換や改善の案出しに難航したことである。成果は諦めずに活動し身体に優しい作業方法の確立ができたことである。
9:50 ～ 10:10	②滑車を利用した接地器具の考案と導入による感電事故防止 東日本電気エンジニアリング(株) 東京支店 東京変電サービスセンター 技術係 柏倉	現在使用しているクリップ式接地器具はバネが強く、高圧ゴム手袋を装着しての接地取付作業が作業員の負担となっており、接地取付がおろそかになる恐れがあった。そこで新しい接地器具を考案し導入することにより、接地線を確実に取り付けられるようにして感電事故防止を図った。
10:10 ～ 10:30	③仕事の本質を理解し「安全行動」の進化を図る ～より実践的な訓練で「弱点克服」～ 東日本旅客鉄道(株) 東北本部 福島保線技術センター 企画安全G 主務 駒木 拓也	若手社員が抱える弱点(異常時対応の経験不足)に対し、実践的な3つの訓練を通して、仕事の本質を理解しつつ、弱点の克服を実現した。今後も社員の作業安全レベルの向上に向けて、「チーム福島」として、若手・中堅・ベテランの全員が一丸となり安全行動の進化・変革に取り組む。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:10	特別報告 中央労働災害防止協会における国際事業の紹介と今後の展開について 中央労働災害防止協会 技術支援部長 小宮山 弘樹	中央労働災害防止協会が加盟する「アジア太平洋労働安全衛生機構」(APOSHO)の年次会議を報告するとともに、当協会がAPOSHO加盟団体等と連携して取り組んでいる交流会等の国際事業、令和7年度に予定しているタイでの日系企業向けの安全衛生大会の構想を報告する。
11:10 ～ 11:40	特別報告 台湾における労働者の健康保持増進の現状と課題 長榮大学 安全衛生科学学院 教授 兼 院長 陳 秋蓉	台湾の職業安全衛生法では、事業者は、労働者の健康保持増進のための予防計画を立てて実施することが義務付けられている。人間工学的手法、仕事の異常負荷予防、心身のパワーハラスメント予防、母性や中高齢者の安全衛生対策など、台湾の労働者の健康保持増進対策について理解を深める。



安全管理活動分科会②

11:40 ～ 12:00	④ 構内物流における安全性の向上 (一社) 日本自動車工業会 安全衛生分科会 Aグループ研究会委員(カワサキモータース(株) 企画本部人事総務部 総務安全課 基幹職) 帶山 幸久	生産現場にとって必要不可欠な構内運搬車両による事故・災害が、後を絶たない。これらは初心者のみならず熟練者によるミスも多くある。これを受け、進化を続ける自律的かつ安全に搬送できる技術を活用した、構内物流における安全性向上の各社の取り組みについて報告する。
12:00～13:00 昼休憩60分		
13:00 ～ 13:20	⑤ 安全性向上のための作業計画見直しの一考察 西日本電気テック(株) 京阪神支店 姫路メンテナンスセンター 主任 西田 貴明	当社では、過去に発生した事故・事象の対策として制定されたルールを逸脱することで、事故や労災が発生する場面が見受けられた。現場で作業する私達の立場・視点から分析を行い、併せて、安全性と作業効率との関係性について検討し、実作業計画を見直した内容について発表する。
13:20 ～ 13:40	⑥ 安全中核要員による安全推進活動 AGCガラスプロダクツ(株) 一関工場 安全グループ 橋本 康幸	安全中核要員の育成はRA、機械安全を中心としたAGCグループ安全強化活動の一つで、AGCガラスプロダクツは2010年から受講し、既卒生は自拠点のみならず他拠点に赴いて安全パトロール、過去災害対策状況の確認、安全担当者フォロー等を行い安全水準の向上に努めている。
13:40 ～ 14:00	⑦ 灯具取替における墜落リスクの排除について 東海旅客鉄道(株) 関西支社 大阪統括電気所 大阪電気技術センター 電気技術係 小林 稜也	新大阪駅で多数発生する灯具取替では、墜落リスクがあったため、脚立を使用せずに取替できる方法を模索した。調査の結果、市販のランプチェンジャーを改良することで灯具の取り外し、取り付けを可能とし、作業用の動画による取替訓練を行うことにより、墜落リスクを根絶した。
14:00～14:10 休憩		
14:10 ～ 14:40	特別報告 社員の健康と命を守るために！ 絶え間なく進化を続ける熱中症対策 リライアンス・セキュリティ(株) 代表取締役 田中 敏也	熱中症の重症者ゼロを続けるために2015年より強化している熱中症対策は、毎年5月から10月までの半年間という長期にわたって取り組んでいる。気象庁観測史上一番暑かった夏を乗り越え、仕事上の健康リスクを徹底的に排除し続けるために、異次元の進化を続けている。
14:40 ～ 15:00	⑧ 現場が守れる伐採装備基準の策定と理解活動 ～伐採作業の切創災害撲滅に向けて～ 東京電力パワーグリッド(株) 業務統括室 安全マイスター 柳田 和広	伐採時の切創災害が増加し、対策が急務であった。過去データ分析等を行い、守るべき部位を明確にしたPG伐採装備基準を定め運用した。しかし、ルールメイクだけでは当然うまくいかず、協力会社と一体となり、現場が守れる基準への改定と作業員の理解促進に向けた取り組みである。
15:00～15:10 休憩		
15:10 ～ 15:30	⑨ 安全をより自分事として考えられる職場を目指して 日産自動車(株) 横浜工場 パワートレインEV コンポーネント生産技術開発本部 試作・サイマル技術開発部 試作課 係長 飛川 義匡	2017年度から5年間、無災害を継続。安全活動により揺ぎ無い安全の大樹を育てたと思っていたが、実際には「やらされ感」や、「提出が目的」となり、本質から離れていたことに気づいた。本発表は、全社員が安全活動を自分事として捉えられるように取り組んだ内容の紹介である。
15:30 ～ 15:50	⑩ 奥羽本線福島駅構内線路切換工事における安全対策について 仙建工業(株) 福島支店 福島アプローチ軌道作業所 副所長 蟹澤 一祝	本工事は、限られた時間の中で総勢約300人と大人数での施工となるため、入念な準備作業やリハーサルを行い、施工検討会やリスクマネジメントを実施した。取り組みの結果、計画時間内で施工品質良く、大人数の作業で誰一人怪我することも無く、工事を終了することができた。
15:50 ～ 16:10	⑪ 安全運転管理者による、社用車や通勤車両の安全運転管理 日新運輸工業(株) 安全環境統括部 課長 三原 崇司	社用車や通勤途上の自家用車の事故が発生している中で、「(株) 電脳」様の「OD式安全性テスト」を活用し、従業員の運転適性を数値化し、繰り返し上位職による面談を行なうことで安全運転意識の向上につながった。副産物として、職場のコミュニケーションの向上にもなった。



安全管理活動分科会②

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 10:30	講演 IE(インダストリアル・エンジニアリング)手法で安全性・生産性を高めよう 広島工業大学 工学部機械システム工学科 教授 宗澤 良臣	IE(インダストリアル・エンジニアリング)とは、作業を時間・動作の面から定量的に分析し、その中からムダ・ムラ・ムリなどの問題を検討し、生産性などの改善を行う手法である。本講演では、IEの概要を説明し、企業における分析事例を紹介する。それらより、自社での安全性・生産性を高めるヒントを得る。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:00	⑫KY能力向上によるKY活動の推進 (株)神戸製鋼所 大安製造所 総務部 安全環境室 林 祐司	災害発生要因の一つとして危険抽出力不足があり、KY能力向上に取り組むこととした。各職場でやらされ感なく、自主的にKYのレベルアップ活動を推進していくために必要な「監督職のKY教育能力の向上」と「一般作業者のKY能力の向上」を目指した活動について発表する。
11:00 ～ 11:20	⑬「当たり前」作業からの脱却～職場に潜む不安全状態・行動の顕在化と排除～ ナブテスコ(株) 神戸工場 製造部 生産技術課 保全職場 保全職場員 城本 順平	保全職場では、高所や地下・狭所等、様々な環境下で業務を行い、非常・久しぶり作業も多い。「当たり前」になっている作業を客観視し、脚立やはしご、踏み台の昇降作業等、不安全行動の顕在化とリスク低減対策を繰り返し、危険源の排除につなげた。これらの改善活動を紹介する。
11:20 ～ 11:40	⑭線路内作業における安全と当事者意識について 東日本旅客鉄道(株) 新潟支社 酒田保線技術センター 工事戦略グループ 主任 西巻 宏晃	鉄道システム等の進歩とともに事故は減少してきた一方で事故の悲惨さを知る社員も減少し、線路内作業に対する恐怖心も薄れてきている。本発表では従事者一人ひとりの実態を具体的に把握するとともに、どのような安全の取り組みに効果があるか検証したものである。
11:40 ～ 12:00	⑮ドラレコ・災害事例から学ぶ主体的安全活動の推進 日本製鉄(株) 瀬戸内製鉄所阪神地区神崎 薄板部 神崎薄板工場製造課 班長 川久保 信	当社ではラインに設置している見守りカメラを活用した安全活動を推進している。この活動は、他職場も含めた全員参加の視聴会を行い、危険箇所を抽出することにより、本質安全化につながる取り組みとなっている。他にも主体的安全活動により効果が得られた改善事例を紹介する。
12:00～13:00 昼休憩60分		
13:00 ～ 13:20	⑯つり足場での過積載事象とその後の改善策について (株)レールテック 近畿支店 大阪調査監理センター 技術リーダー 瀬川 和央	過去につり足場上の過積載による足場崩落・係員の墜落労災が発生し注意喚起されていたことを活かし、今回足場上の過積載事象を重大労災となる前に安全パトロールで確認し、施工会社とともに是正・改善策等取り組んだ内容について発表する。
13:20 ～ 13:40	⑰特例許可作業の改善 佐々木工業(株) 阪神支店 堺作業部 作業課 ロール整備 一般 村田 正志	我々の所属する作業課は、圧延機用のロール管理を行っている。ロールショップには研磨機、ダル加工装置があり、作業スペースが狭い中での玉掛作業が多い為、つり荷に近い等の安全上の課題があった。今回、回避距離を保つための専用治具考案などにより安全リスク低減を実現した。
13:40 ～ 14:00	⑱部署を横断した事故防止タスクチームの結成 東急プロパティマネジメント(株) ビルマネジメント事業本部 BM事業部 施設サービス部 推進職 矢口 果凜	清掃業務を主とする当部は、今年度より4つの課から統合され設立された。各課は過去グループ会社だった事や管理する建物用途が異なることから、個別に事故対策を行い横展開ができていなかった。事業拠点も統一された事もあり各課を横断し事故タスクチームを発足、再発防止を図った。



安全管理活動分科会②

14:00~14:10 休憩

14:10 ~ 14:30	⑱「墜落」を二度と発生させないために 九州旅客鉄道(株) 小倉総合車両センター 車両技術主任 熊手 雄大	2023年7月に塗装作業場P6番線において作業者が高所作業足場(床面から固定足場まで2,665mm)から墜落する事象が発生した。対策として、当センター内の固定足場を緊急点検後、墜落制止用器具のフックの掛替えを不要とする等の設備改修を実施し再発防止を図っている。
14:30 ~ 14:50	⑳熊本新幹線工務所における安全意識向上を目的とした体験型取り組み 九州旅客鉄道(株) 熊本新幹線工務所 電気技術係 山下 将輝	新幹線の設備を保守する自職場において、労働災害、交通事故や鉄道の安全を脅かしかねない事象が多発した。同じような事象の再発を防ぐため、体験することに重きを置いた様々な取り組みを行い、安全意識の向上を図った。
14:50 ~ 15:10	㉑現場主役の安全活動の推進による変化に強い職場づくり トヨタ自動車(株) 安全健康推進部 CX 坂田 純子	近年、社会環境が大きく変化する中、従来の全社一律の安全活動では変化に追従できず、災害に至るケースが散見される。このような状況においては各職場が主体となり「安全は現場でつくっていく」という強い意志とこだわりをもった安全活動の推進が必要である。
15:10 ~ 15:30	㉒安全に強い人・職場づくり! 安全健康室からの職場支援 JFEスチール(株) 西日本製鉄所 安全健康室 副課長 田中 幹夫	年齢構成の変化や合理化により、経験不足や危険感受性の低下要因で作業行動に起因する災害の割合が増加。所内の直協において災害発生部署を安全マイスターが支援する活動を展開した。難課題について改善提案・予算計画や教育支援等で安全に強い人・職場づくりを企画推進した。
15:30 ~ 16:00	特別報告 不安全行動防止のマネジメントの体系的整理と労働災害に係る法違反の傾向 香川労働局 労働基準部 監督課 課長 小林 弦太	香川県内の労働災害に係る法違反として、非定常作業時の機械不停止などが多く見られる。本報告では、既存の様々な知見を整理してまとめ上げ、不安全行動を分類し、「危険性又は有害性等の調査等に関する指針」を踏まえ、それぞれの類型に対応した対策と具体例を体系的に紹介する。



安全管理活動分科会③

会場 広島市文化交流会館 銀河

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	①京都競馬場スタンド建替え工事の安全取り組み事例 (株) 大林組 大阪本店 京都競馬場工事事務所 副所長 山口 紀宏	本工事は京都競馬場の建替え工事である。複雑な建物形状でありながら、旧スタンド解体から新スタンド引渡しが28ヶ月とタイトな工期の中で、安全かつ効率的な施工を求められた。本発表では施工方法、仮設足場の工夫及び新技術の採用による安全確保の取り組みについて発表する。
9:50 ~ 10:10	②将来にわたる鉄道の安全の実現に向けた安全・品質の取り組みと事例発表 (株) JR西日本テクノス 下関支店 安全推進部 部長 松崎 英樹	2023年度は、JR西日本が掲げる「鉄道安全考動計画2027」の初年度となり、現場起点の考動による問題解決への挑戦、心理的に安全なチーム作りに焦点を当て、下関支店のスローガン「「ヤレ」から「ヤロウ」の安全品質活動!」のもと取り組みを進めてきたため発表する。
10:10 ~ 10:40	特別報告 ドライバーの居眠り運転事故の実態「マイクロスリープ(瞬眠)」 愛知医科大学 名誉教授 広島大学医学部 客員教授 塩見 利明	危ない運転中の“ウトウト”、すなわち居眠りの実態はマイクロスリープ(瞬眠)である。 トラックドライバーのドライビングレコーダー映像解析から、瞬眠は居眠り運転事故直前に頻発することが判明した。今後、瞬眠の検知と予防の研究は、あらゆる労働災害防止に役立つだろう。



安全管理活動分科会③

安全管理②

安全管理③

10:40~10:50 休憩

10:50 ~ 11:10	③ 全員参加で取り組んだ4S活動 ～歴史から学び、文化へ～ トヨタ自動車東日本(株) 宮城大和工場 生産部 トルクコンバータ製造課 工長 針生 勝	自職場から1年間に2度の小火を発生させてしまい、安全の想いが不足していたと痛感したことから、職場の仲間を守るために信念を持って4Sを推進し、また、工場内の過去火災の歴史を振り返り、学び、風化させない活動を通じて文化に変えていく取り組み事例を紹介する。
11:10 ~ 11:30	④ 電気融雪器取り外し工具(アタッチメント)の考案と導入による傷害事故防止 東日本電気エンジニアリング(株) 新潟支社 直江津サービスセンター 課長代理 田中 宣章	電気融雪器(PH)の取り外しにあたってはレール床板に取り付けたPHをハンマーでたたいて取り外しており、手指を挟むなどのリスクがあった。そこで汎用電動工具を使用してPHを取り外せるような新しい工具(アタッチメント)を考案し導入することにより、傷害事故防止を図った。
11:30 ~ 11:50	⑤ コイルリフター着脱作業の安全化 JFEスチール(株) 東日本製鉄所 千葉地区 熱延部 熱延工場 熱仕 S&Rグループ リーダー 石田 裕貴	コイルリフター着脱作業とは、天井クレーンに装着しているリフターをクレーンの使用用途により着脱する作業である。この作業は現場から離れた遠い所で高く狭い足場の上で取り外ししなければならない。この危険な作業をチームワークと斬新な発想で飛躍的に安全化することを目指す。

11:50~12:50 昼休憩60分

12:50 ~ 13:10	⑥ 大規模自然災害に備えた取り組み ～BCPにスムーズにつなげるために～ マツダ(株) 安全健康防災推進部 リーダー 藤澤 正和	我々は、大規模な自然災害や火災等から従業員の命を守り、資産の被害を最小限に抑えることを目標に活動している。そのためには、発生時の適切な初動対応とBCPへの移行/実践が重要である。弊社では平時から体制整備や実践的な訓練を行っており、その取り組みについて紹介する。
13:10 ~ 13:30	⑦ 研究所における防災への取り組み (株) 日本触媒 吹田地区研究所 レスポンシブル・ケア本部 研究RC部 主任 藤野 寿夫	日本触媒では、吹田工場の撤退により研究所単独で事業所を運営することになった。従来と同じ防災活動ではうまくいかず、研究所に適した防災体制を再構築することで機能的な防災活動ができるようになった。さらに、研究員に適した啓発活動や訓練により防災意識の向上が図れた。
13:30 ~ 13:50	⑧ 和歌山調査監理センターにおけるSKK(作業計画検討会)の取り組み報告 (株) レールテック 和歌山調査監理センター 技術係 井上 颯	和歌山調査監理センターで実施しているSKKは全ての検査に対して検討しており、作業時に注意する点や駐車箇所等を話し合い、現場でのリスクを徹底的に低減している。また協力会社にも参画していただくことで、作業の効率化と事故防止に取り組んでいる。その取り組みを発表する。

13:50~14:00 休憩

14:00 ~ 14:20	⑨ フォークリフトでの災害を出さない! ～環境整備と凡事徹底、ルールを守れる人財育成～ トヨタ自動車九州(株) 車体部 プレス課 工長 金当 栄一	過去よりフォークリフトに関連する災害やヒヤリが多く、一歩間違えば重大・重篤な災害につながりかねない事例もあった。この命に関わる事例に対し「発生リスク低減」、「安全・安心に働ける職場」、「二度と痛い思いや悲しい思いをする仲間を出さない」と強い意志を持って活動を推進。
14:20 ~ 14:40	⑩ 交通安全対策(車両運転検査)を健康支援につなげる新しい健康経営のカタチ サンエイ(株) 安全衛生推進部 交通安全担当 安井 悠	加齢による身体能力低下、SAS(睡眠時無呼吸症候群)等、健康面が原因の交通事故未然防止は大きな課題である。そこで、健康経営の視点を取り入れた弊社オリジナルの高年齢運転者向け適正検査と実技指導、SAS検査と健康支援を実施し、有意義な結果を得ることができた。



安全管理活動分科会③

14:40 ～ 15:00	⑪外国人労働者に伝わる「やさしい日本語」の導入 (株) アカデミヤ 代表取締役 朱宮 裕子	外国人労働者が言葉の壁に阻まれることなく安全に働けるよう、管理・指導する側は、外国人への情報伝達を目的に考案された「やさしい日本語」を使うことが望ましい。その「やさしい日本語」をどのように職場で展開するか、事例を紹介する。
15:00～15:10 休憩		
15:10 ～ 15:40	特別報告 コープやまぐちを支える労働災害防止の取り組みについて 生活協同組合コープやまぐち 安全推進兼環境担当マネジャー 池永 拓也	スーパーマーケット業態では短時間勤務の方を中心に雇用しているため、同日同時間に全員が揃うことはない。そこで動画マニュアルを活用し、作業を「文字」ではなく「映像」で確認することで、誰でも分かりやすく見て学べるよう工夫している取り組みを紹介する。



DX等分科会

会場 JMSアステールプラザ 中ホール

DX等分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設!
 お気軽にご相談ください

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①労働災害を予防するための学びを得るチャットボット(生成AI)の活用 東京電力HD(株) 安全推進室 課長 大後 茂雄	令和4年度の日本の労働災害状況は、死亡災害者が減少したものの重傷者は増加した。第14次労働災害防止計画ではDX推進も重視されていることから、ChatGPTを活用しオープンデータと企業が保有している災害データを学習させたところ減災につながる示唆を得ることができた。
9:50 ～ 10:10	②新人の安全確保 日産自動車(株) 栃木工場 第一製造部 塗装課 工長 藤間 義弘	今年度は全ての標準作業のRAをスタートし、製造部全体で各職場をクロスで廻っている。危険リスクが高いとされる付随作業を優先に進めて来たが、実際に発生する災害は新人率が非常に高い。新人災害の未然防止につなげられるよう、新人に焦点を当てた活動に切り替える必要がある。
10:10 ～ 11:10	講演 伝統産業とDX ～DXとは挑戦すること～ (株) 晃祐堂 取締役社長 土屋 武美	伝統的なイメージの強い熊野筆生産を行う晃祐堂。デジタルとアナログ、DXとは真逆の位置にいるように見える企業の挑戦。好奇心を持って新たな取り組みを行うことが、なぜDXの創出につながるのか。商品企画、安全衛生面など様々なチャレンジを、DXを絡めて紹介する。
11:10～11:20 休憩		
11:20 ～ 11:40	③全豊田安全衛生研究会「DXを活用した兆候管理」～ワクワク感が未来を拓く～ トヨタ自動車九州(株) 安全健康管理部 安全衛生推進室 主事 坂門 憲二郎	トヨタグループ17社で組織する当研究会では、働く人の多様性や働き方改革が進む中、体調変化や不安全行為を事前に察知し対応すべく「DXを活用した兆候管理」の取り組みを開始。健康・安全・衛生の分野別に若手小集団による柔軟な発想から課題解決を推進している内容を紹介する。
11:40 ～ 12:00	④画像AIを活用した作業者モニタリングと作業安全サポートの実践 タック(株) 新事業開発部 音声・画像解析事業チーム チームリーダー 宮里 薫	現状、安全保護具の未着用による薬傷災害の比率が多い。人の行動にはミスやうっかりが発生するものとし、AIカメラによる行動の監視技術を開発し作業者へサポートする仕組みを構築した。結果、保護具の着用忘れを防ぐことができ、職場の安全レベル向上に寄与できた。



DX等分科会

12:00~13:00 昼休憩60分

13:00 ~ 13:20	⑤安全活動支援システム (AKSiS) について ~災害情報の共有と見える化をサポート~ 中部電力(株) 安全健康推進室 安全推進グループ 担当 磯貝 真子	当社は、安全健康基本方針の表明、行動原則の制定、体制整備など、安全文化の醸成に向け取り組みを進めている。その取り組みの一つとして、各種データ(災害情報や再発防止対策等)を一元管理し、有効活用できる仕組みとするため、安全活動支援システム (AKSiS) を構築した。
13:20 ~ 13:40	⑥安全ICTを活用した安全風土醸成の取り組み (株) NTT-ME 通信インフラデザイン部 安全センタ センタ長 渡辺 徹	弊社ではICT活用による労働災害撲滅に取り組み、災害発生件数は減少傾向にあるものの、昨今、労働環境が大きく変化し、築き上げた安全文化が継承されず、重篤な労働災害の発生リスクがある。安全文化の維持・向上に向けたコミュニケーション活性化の取り組みを報告する。
13:40 ~ 14:00	⑦ドローンを活用した鉄道路木構造物災害調査の安全性と今後の課題 (株) レールテック 金沢支店 技術係 菊田 大輔	災害現場における墜落・滑落・触車などのリスクをドローンによって対処する試みを行った。本発表では従来の手法とドローン調査の比較、ドローン調査のリスクアセスメント、実際に運用した所見と問題点、およびこれらを踏まえた今後の対策と課題について発表する。
14:00 ~ 14:20	⑧鉄道近接工事でのeYACHOをはじめとするICTを活用した安全衛生活動事例 (株) 大林組 大阪本店 大阪駅西北ビルJV工事事務所 工事長 山本 訓久	近畿随一のターミナル大阪・梅田地区で鉄道近接した高層建築建設工事では、昼夜二交代作業が必然であった。昼夜間の連絡調整は安全の要といえ、各作業間のタイムリーかつ綿密な安全情報共有はeYACHOツールを活用した。この手法による安全性と生産性の効果を報告する。
14:20 ~ 14:40	⑨Teamsを活用した現場力の向上 日本製鉄(株) 関西製鉄所 製鋼所地区 鉄道車両品製造部 輪軸熱間工場 熱間製造課 係長 坂本 淳	自職場で発生した休業災害は、安全リスクの共有ができていれば起きずに済んだ災害であった。職場内で安全リスクの共有を迅速に行うために採用したTeamsアプリが、安全リスクのみならず、様々な職場活性化ツールとなり、安全意識とコミュニケーション力の向上へとつながった。
14:40 ~ 15:00	⑩IoT技術活用による安全性の向上と効率化を目指して(鉄道電気設備工事編) JR九州電気システム(株) 福岡事業部 福岡信通工事所 チーフ 橋本 直幸	鉄道電気工事は、列車運行の無い限られた時間で実施するため、様々な施工情報を従事員相互に共有することが必要不可欠となる。今回の取り組みでは、様々なIoTツールを活用し、安全、施工品質、行程管理の情報を効果的に共有することで安全で円滑な施工を実現できるようになった。

15:00~15:10 休憩

15:10 ~ 15:30	⑪労働災害分析ツールの構築 京セラ(株) 鹿児島川内工場 川内環境安全部 安全防災課 メンバー 梶原 合翔	労働災害の発生傾向は、作業内容や人員構成等、事業形態により傾向が異なる。本研究では、事業形態が異なる複数の事業部が在籍する当事業所において、事業部に応じた効果的な安全対策を行うべく、過去の労災データから事業部毎の発生傾向を分析するツールを構築した。
15:30 ~ 15:50	⑫ヒヤリ・ハット分析による労働災害防止 日本貨物鉄道(株) 東海支社 安全部 主任 山本 脩真	日々報告されるヒヤリ・ハットについて、過去の報告事例を踏まえて内容を分析することにより、ヒヤリ・ハットの発生傾向を捉え、危険箇所に対して効果的な対策を講じられるよう取り組んだ。その取り組み内容と成果について紹介する。

安全管理 ③

DX等



DX等分科会

15:50 ～ 16:10	⑬安全風土を形成させるための改善活動と安全教育 フタムラ化学(株) 大垣工場 安全環境グループ グループリーダー 岡部 哲也	安全風土を形成させるための安全活動を推進し、着実に成果が出ている。さらに、安全風土を形成、定着させるためには、従業員に安全に関する原理・原則を理解させるための安全教育の充実が必要と考えており、安全活動の経緯と新たに導入したオンライン型教育サービスを紹介する。
---------------------	---	---



機械・設備等の安全分科会

会場 JMSアステールプラザ 中ホール

機械・設備等の安全分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設!
 お気軽にご相談ください

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①グローバルダイカスターを水蒸気爆発から守り抜く活動 (株)デンソー西尾製作所 部品加工開発部 造形加工開発室 鋳造プロジェクト課 担当 是永 祐介	鋳造工程は熔融金属を扱う点から災害リスクが高い。その原因の一つは、扱う器具の水蒸気爆発に起因し、保護用の水溶性コーティングが原因である。本研究はコーティングレス器具開発による作業リスクレベル低減と共にグローバルメンバー21拠点を守り抜く災害防止活動である。
9:50 ～ 10:10	②設備の安心安全稼働を目指した活動の取り組み (株)オートテックジャパン 管理統括部 総務部 安全衛生課 一般 岩城 敏行	過去に導入された設備は稼働前安全確認の実施や稼働可否判断基準などが曖昧な状態で使用されていた。新たに設備安全委員会を設立し、社内基準を設け安心安全稼働の実現に向けた取り組みや実際の活動を紹介する。
10:10～10:20 休憩		
10:20 ～ 10:40	③点群データ・3Dモデルを活用したプロジェクト工事のより安全な推進 東海旅客鉄道(株) 建設工事部 電気工事課 主席 白木 祐輝	在来線電車線工事では、安全な施工のための事前調査や施工前打ち合わせが非常に重要である。今般、クレーン使用時に「点群データ・3Dモデル」で事前に詳細な把握をすることで、打合せの確実な実施を図った。また、信号機見通し確認も実施することで、線路内での調査を削減できた。
10:40 ～ 11:00	④水砕トラフ・スラグ堆積解除作業の改善 ～災害撲滅に向けた取り組み～ J&T環境(株) 東京事業本部 東京臨海エコクリーン 運転グループ 主任部員 高瀬 邦俊	ゴミ焼却に伴い発生する高温の熔融スラグを処理する「水砕トラフ」設備での作業中、災害が発生した。当該作業は頻度が多く、高温・狭隘部があり作業に危険を伴うため、作業環境を改善し安全性向上を図った取り組みを紹介する。
11:00～11:10 休憩		
11:10 ～ 11:30	⑤作業手順書明確化による安全な職場づくり 川崎重工業(株) 西神工場 航空宇宙システムカンパニー 航空エンジンディビジョン エンジン生産総括部 西神製造部 西神検査課 班長 岡田 康典	航空機エンジン部品の非破壊検査職場に潜む危険を、作業の動き/使用工具/設備/作業手順書に焦点を当て、班員全員でブレインストーミングを実施し危険有害要因を抽出。安全に配慮した手順書を明確化する事で、誰もが安全に作業ができるようリスク低減を実施した。



機械・設備等の安全分科会

11:30 ～ 11:50	⑥固着概念に終止符を!クレーン作業の安全改革への道 ～危険作業のストッパーに俺がなる～ JFEスチール(株) 東日本製鉄所(京浜) 制御部 熱延制御室 一般 柵木 力	我々は製鉄所物流の要であるクレーンの保守点検を行っている。日々安全な環境を整えて業務を行っているが、今までそういうものだと思っていた搭乘方法、ストッパーの脱着作業について見直すと、高所や開口部に近接する危険リスクがあった。これらの作業を安全化した事例を紹介する。
11:50 ～ 12:10	⑦不安全設備の解消 ～回線分離による感電リスクの低減～ 東日本旅客鉄道(株) 高崎支社 高崎電力設備技術センター 高崎電力メンテナンスセンター 指導係 伊東 佑	電力作業は、高電圧設備に近接する場合がある。基本全停電で行うが設備構成によっては感電のリスクを伴うため、対策や感電防止教育を行っているが、2023年度には感電死亡事故が発生している。作業員の感電リスクの低減を目的に、不安全な設備環境を改善した事例を紹介する。
12:10～13:10 昼休憩60分		
13:10 ～ 14:10	講演 機械災害を防止するための設計と作業手順の構成 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 能力開発院 能力開発基礎系 安全ユニット 教授 中村 瑞穂	機械作業における安全確保は機械・設備側および作業側における保護方策により行われるのが一般的である。本講演では設計方法・作業手順書の構成について停止(止まる・止める)を切り札とし、一体的に実施する方法を説明する。
14:10～14:20 休憩		
14:20 ～ 14:40	⑧光ケーブル架線用青金車操作棒の改良による作業員の負担軽減・安全確保について (株) ユアテック本社 エンジニアリング本部 情報通信部 技術管理グループ 係長 鎌田 嘉寛	光ケーブル架線工事に使用する青金車は、操作棒を伸ばしながら取り付けているが、取り付け位置によっては届かない場合があり苦慮していた。また、取り外しする際青金車を落下させる懸念があった。このたび操作棒の改良を行い作業員の負担軽減および安全確保を図ったものである。
14:40 ～ 15:00	⑨作業環境の改善「作業ウマ」から「LEG(レグ)」への変更 PACRAFT(株) 岩国工場 製造部生産1課 主任 池永 光平	「作業位置低減化」「クレーン作業削減」実現のためフレームを預ける「作業ウマ」を「LEG(レグ)」へ変更。変更の際現場の声や作業性を重視しつつ、解析を用いた確かな裏付けによる設計を実施。本活動により高所作業・クレーン作業削減の他耐久性・環境面・機能面でも改善。
15:00～15:10 休憩		
15:10 ～ 15:30	⑩高圧用検電接地装置の開発 東日本旅客鉄道(株) 東北本部 仙台電力設備技術センター 電路設備管理G 主任 佐藤 弘太	鉄道事業の停電作業は、主に夜間の限られた時間で高所や活線近接の作業を行っており、このような作業環境から感電・墜落の労働災害が度々発生している。本開発は、高圧配電線の検電・接地作業での感電・墜落リスクを低減し、安全に作業できる環境構築を目的とし、装置開発を行った。
15:30 ～ 15:50	⑪働く環境のウェルビーイング向上に最適な協調安全/Safety2.0とその適用事例 IDEC(株) 国際標準化・協調安全4次元推進部 国際標準化・協調安全4次元推進グループ マネージャー 清水 隆義	協調安全/Safety2.0は、人・機械・環境の情報を活用することで社会課題解決を図る新たな安全方策である。この方策に対応した非常停止装置やセンシングシステムの働く環境への導入による安全及びウェルビーイング向上の効果と、更なる展開について述べる。



安全衛生教育分科会

会場 広島国際会議場 ヒマワリ

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①環境配慮行動に関する心理プロセスを利用した動機付け教育による危険感受性向上活動 日油(株) 愛知事業所 環境安全管理室 小島 幸也	安全知識が安全行動に結びつかないという課題を解決するため、環境配慮行動に関し認知・行動心理プロセスの面から研究された三阪モデルを参考に、個人の責任感、危機感等を刺激し安全に対する関心や動機付けを強化することで、安全行動の徹底(危険感受性の向上)を図った。
9:50 ～ 10:20	特別報告 世界がまだ見ぬボールパークをつくろう ～北海道ボールパークの街づくりと建設～ (株)大林組 執行役員 京都支店長 (元 大林・岩田地崎特定建設共同企業体 所長) 竹中 秀文	世界がまだ見ぬボールパーク建設で、施主、行政、施工者が一体となったプロジェクトを準備から竣工までのストーリーと完成したスタジアムを紹介する。また、厳冬期でも安全に工事を中断することなく完成した足跡やファイターズ選手の新球場に対する熱い思いについても報告する。
10:20 ～ 10:40	②Googleフォーム、YouTubeを用いた安全衛生教育について 濱口労働安全コンサルタント事務所 代表 濱口 敦	顧問先企業において、安全衛生教育をGoogleフォームを使用し実施、各職員別にレーダーチャートを作成し弱点を把握することで、効率的な学習を促すとともに、YouTubeを使用した教育チャンネルを作成し10分以内の教育を継続して行い学習効果を高めた。
10:40～10:50 休憩		
10:50 ～ 11:10	③未熟練者をターゲットとした労働安全衛生教育の拡充 JX金属(株) 環境安全部 荻野 隆博	弊社では近年、KYやリスクアセスメントといった従来の安全衛生活動にプラスし、ハード面では「本質安全化対策の推進」、ソフト面では「安全衛生教育の拡充」等、安全衛生活動について大幅な改革を行ってきた。今回は「安全衛生教育」の取り組みとその効果に焦点を当てて紹介する。
11:10 ～ 11:30	④災害から学ぶ安全活動の取り組みと推進 日産自動車(株) 栃木工場 第三製造部 第三車軸課 技能員 星野 朝光	課内での過去の災害の振り返りを基に、発生した原因を分析し、問題点を明らかにして対策を実施した。また、災害を発生させないための物的対策や、危機感受性を深めるための体感訓練や全員参加型の定例勉強会の取り組みについて紹介する。
11:30 ～ 11:50	⑤ユアテック人財育成センターにおける安全体感教育について (株)ユアテック人財育成センター 資格取得推進グループ 資格取得推進グループリーダー 課長 菅野 英治	この教育の目的は、職場や現場に潜むさまざまな危険を具体的に示し、「見て、聞いて、感じる」という人間の基本的な働きを通じて直感的な理解を促し、危険感受性を高めることである。そして、経験・体験として学ぶ「実技教育(体感教育)」が、この教育の中心的な柱である。
11:50～12:50 昼休憩60分		
12:50 ～ 13:10	⑥安全意識向上にむけた啓蒙活動へのチャレンジ ～今までの伝え方からの脱却～ リコーインダストリー(株) 本社事業所 IP生産事業部 生産統括室 生産統括G グループリーダー 黒澤 昭光	転倒災害が連続発生したため、個人の安全意識向上に取り組んできた。直接労働者の災害発生が多数のため、直接労働者に特化した意識向上に取り組んだ(例:サイネージの活用、設置場所の工夫)。伝え方へのチャレンジ動画に興味を示してくれたことで一定の安全意識向上が図られた。



安全衛生教育分科会

13:10 ～ 13:30	⑦職場の労働安全は第一のマイミッション ～一人一人と向き合う、全員参加の安全活動～ 山崎製パン(株) 広島工場 人事課 一般職 東 エリナ	日々の仕事の中から従業員の声を拾い上げ効率的な改善活動を行うとともに、フィードバックにより更なる安全意識の高揚を促している。ポイントを絞った安全教育研修の実施、安全放送や共用エリアでのKYT動画の配信等により安全第一の職場風土を醸成し、ゼロ災職場を目指す。
13:30～13:40 休憩		
13:40 ～ 14:00	⑧5年で530名が受講 AED心肺蘇生の講師資格を持つ社員が行う心が動く命の講習 大阪ガスケミカル(株) 事業基盤管理推進部 中村 正弘	1年間で8.2万人が心臓突然死で亡くなっている。突然の心肺停止に迅速な心肺蘇生とAED電気ショックで従業員の命を救い社会復帰を可能にするために必要な、正しい知識、技術、そして勇気を習得するAED心肺蘇生講習(基礎講習)。社内発生を想定した模擬講習と進化している。
14:00 ～ 14:20	⑨緊急事態訓練を用いた安全意識の向上と実践的教育プロセスの構築 有楽製菓(株) 豊橋夢工場 生産2課 係長 浅野 真功	FSSC22000、ISO45001、EA21の緊急事態訓練を用いて、重大災害が発生した際のシナリオベースの訓練を行うことで安全意識の向上と緊急対応力を高める実技教育プロセスの構築についての取り組みを紹介する。
14:20～14:30 休憩		
14:30 ～ 15:30	講 演 上司・先輩が知っておきたい「イマドキの若者」の価値観・仕事観とは? 神奈川大学 人間科学研究所 客員教授 松本 桂樹	昨今、多くの組織で20代の心の病による休職が急増している。背景にはさまざまな要因が考えられるが、調査からはイマドキの若者の「やりたいこと」「成長」「貢献」を求める特徴に加えて、「失敗したくない」という傾向が読み取れる。この2種類の心性理解と対策を探っていく。
15:30 ～ 16:30	講 演 事故はなぜ増えてきているのか～最近のヒューマンエラーの背景にあるものとは～ 早稲田大学理工学術院 経営システム工学科 教授 小松原 明哲	安全に熱心に取り組んできたはずの各社から、些細とも思えるミスの事故がなくなり、むしろ増えているとの声も聞く。もしかすると、現場のニーズと行っている安全活動とが乖離してきているのかもしれない。新たな取り組みを重ねるのではなく、基本に立ち返り、現場が求めるヒューマンエラー対策を見極める必要があるのではないか。国や企業の事故分析、安全指導を務める安全人間工学、人間生活工学の専門家が分かりやすく解説する。

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑩工学系大学における新規安全衛生教育制度の導入(第2報) (大)九州工業大学 管理本部安全衛生課 専門職員 池松 隆敏	九州工業大学では研究室所属学生に対して、安全衛生に自ら関心を持ち、潜在する安全衛生上の問題を見出し、それを解決できる人材を育成することを目的に、新しい安全衛生教育認定制度を導入した。本制度の試行から全学展開へ移行するにあたっての成果や課題について報告する。
9:50 ～ 10:10	⑪「管理サイド」主導の安全から「現場作業員」主体の安全への転換 ロンシール工業(株) 土浦事業所 事業所長室 環境安全グループ グループリーダー代行 田村 雪乃	安全意識向上の為に安全「改革」を事業所運営方針に据え、資源を積極的に投入し安全最優先で教育及び現場作業員主体の活動へ転換を目指すこととした。10回/年以上の階層別安全教育を毎年実施すると共に適切な安全衛生活動を随時チェックする「安全キーパーソン」を育成した。



安全衛生教育分科会

10:10 ～ 10:30	⑫産業現場における機械の安全化推進を担う人材育成と労働災害防止効果 日本精工(株) 生産本部 EHS推進室 副室長	産業現場での労働災害低減においては、機械安全に係る知識・技術・技能など十分な知識を有する人材の活用がカギとなる。人材育成の継続推進を通し、機械に関する危険性調査の全社推進体制構築による、労働災害発生件数削減について報告する。	原 謙一郎
10:30 ～ 10:50	⑬JR東日本 上野電力設備技術センターにおける移動電源車を活用した感電事故防止教育 東日本旅客鉄道(株) 首都圏本部 上野電力設備技術センター 主務	JR東日本 上野電力設備技術センターでは、従来より感電事故防止教育を定期的に行っている。昨今の感電重大事故を鑑み、再発防止のため教育内容を一部見直し、移動電源車を活用することで実践的かつ時間や場所に縛られないフレキシブルな訓練を実現したので報告する。	井手野下 修
10:50～11:00 休憩			
11:00 ～ 12:00	講演 どん底からの会社再建 ～過疎地域の雇用を守り、働く人を大切にする職場づくり～ 協栄金属工業(株) 代表取締役社長	生命保険や訪問販売、ゴルフ場を転々とし弊社に入社。作業員として勤務するが、同じ頃、会社はリーマンショックで経営危機に陥る。そこで、前職の経験をかわれ、入社4年で社長に就任。既成概念にとらわれない大改革で、いくども過去最高黒字を更新するなどV字回復を果たした。	小山 久紀
12:00～13:00 昼休憩60分			
13:00 ～ 13:20	⑭安全衛生教育体制構築による作業経験の浅い作業員の災害防止 京セラ(株) 鹿児島川内工場 川内環境安全部 安全防災課 メンバー	当事業所では、作業経験の浅い作業員による労働災害の抑止が課題であった。本研究では、作業経験の浅い作業員に対し、正しい作業内容と作業に潜むリスクについて、適切且つ確実に理解させ、正しく作業のスタートを切ることができ、維持できるよう安全衛生教育体制の構築を行った。	松本 義博
13:20 ～ 13:40	⑮アサーション研修によるお客様対応能力向上 (株) NTT-ME 関信越ブロック統括本部 サービス運営部門 運営企画担当 社員	現場の若年化に伴い、若手社員が単独でお客様対応を行う機会が増えている。クレーム等の抑圧下において不安全行動を起こさぬよう、お客様を尊重しつつ適切な対応を行うアサーション研修を実施。実際のクレームを元にロールプレイを実施し、実践的なスキルを習得する事ができた。	渡邊 太郎
13:40 ～ 14:10	特別報告 群馬大学における地域連携PBL教育の一環としての危険体感装置を用いた安全教育 群馬大学大学院 理工学府 学府長	群馬大学では、学生が地域の企業に出向き、自身の課題を発見する「課題発見セミナー」をPBL教育として実施した。学生を企業に派遣し、作業等を行うため、派遣の前には十分な安全教育が必要となる。そこで群馬大学では、地域と連携し産官学金が一体となった安全教育を実施した。	石間 経章
14:10～14:20 休憩			
14:20 ～ 14:40	⑯現場社員と一体となった新幹線入場講習教育動画の内製化 九州旅客鉄道(株) 川内新幹線工務室 施設技術主任	新幹線の線路内等に立ち入って業務に従事する者は、事前に「新幹線入場講習」を必ず受講しなければならない、動画制作会社にて制作した動画の視聴を主とした教育を実施している。今回現場社員と一体となってより現場の実態等に沿った教育動画の内製化を行った。	濱田 和樹



安全衛生教育分科会

14:40 ～ 15:00	⑰ 社歴30年のベテランが労災経験後に進めた「安全管理・環境の改善」と「高齢化対策」 有楽製菓(株) 札幌工場 保全課 課長 澤田 幸雄	生産・保全計30年の経験を活かして職場の安全対策を行うも事故を防止できなかった。そこで個人の危険察知・安全確保のため危険予知訓練・本質安全化・環境改善を進め、若手への継承に注力した。また高齢社員 の身体能力に合わせた安全策も展開し「永年労災ゼロ!」を目指す。
15:00 ～ 15:30	特別報告 DX-ダム本体建設における 施工の標準化による安全管理手法 (株)大林組 土木本部生産技術本部 ダム技術部 副部長(元(株)大林組 川上ダムJV工事事務所 副所長) 小俣 光弘	川上ダム本体建設工事ではCIMを活用した施工計画とPCa部材の導入など、これまでのダム建設手法を大幅に見直した。作業の標準化と施工量と労働力の平準化を達成することで、工場のような労働サイクルと現場の安全管理を実施した。この結果、147万時間の無災害で竣工した。



ゼロ災運動分科会

会場 広島市文化交流会館 銀河

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	① 添削ノススメ KYの真の狙いと手法の定着を目指した「KYリーダー活動」について (株)北川鉄工所 安全・環境推進部 安全衛生管理課 課長 菅原 則昭	労働災害を分析すると行動起因の影響が大きい傾向であった。危険予知能力の向上が必要となるが職場で実施されていたのは短時間KYが多いため、基本に振り返り4ラウンド法の習得を「KYリーダーによる指導」と「KYシート の添削」により目指した活動について報告する。
9:50 ～ 10:10	② 本音で言い合い積極的で活きたKYT活動へ～新人安全推進員の安全改革～ 日産自動車九州(株) 工務課 一般 熊谷 祥吾	非定型な作業を行う工務課(保全)は実作業を撮影し危険を抽出するビジュアルKYTを導入し危険抽出力が向上していたが、災害が発生。危険な作業でも作業を「止めることが出来ない」問題が浮上。現状のKY訓練と実作業のギャップを検証し新たなKYT活動を見出した。
10:10 ～ 10:30	③ ゼロ災達成に向けた取り組み事例 日本車輛製造(株) 建設機械本部 製造部 大曾根 裕介	「安全は全てに優先する」のスローガンのもと、日々、安全活動を継続しているところではあるが、労働災害根絶を目指し、改めて取り組んだ全員参加の「指差喚呼」活動、「ヒヤリハット」の危険分析に基づくリスク低減活動、3S活動、安全教育等について報告を行う。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 11:00	④ 触防違反撲滅に向けて 九鉄工業(株) 大分支店 中津保線所 課長代理 川野 雄紀	あわや触車となる事故が身近に起きたことがきっかけである。なぜ触防違反が発生したか、過去の事故を振り返り、その過程で必要なことは何かを分析し触防違反の撲滅に向けて安全風土の構築の取り組みをまとめたものである。
11:00 ～ 11:20	⑤ キーパーソンから広げよう安全文化 東ソー・セラミックス(株) 富山工場 QMS改善チーム 係長代理 土井 淳志	各職場から選抜されたメンバー(キーパーソン)へ集中的に教育及び実践することにより社内の安全意識向上を狙う活動を展開している。



ゼロ災運動分科会

11:20 ～ 11:50	運動展望 これからのゼロ災運動を展望する 中央労働災害防止協会 教育ゼロ災推進部 ゼロ災推進課 次長 武井 勝一	1. ゼロ災運動とは(人間尊重の理念、明るくいいきと働ける職場づくり、人づくり) 2. これからのゼロ災運動(3つの理念「ゼロ・先取り・参加」) 3. 健康づくり(高齢労働者と転倒・腰痛災害) 4. 働きがい(ワークエンゲイジメント) 5. 職場づくり、人づくり(リーダーシップ、コミュニケーション)
11:50～12:50 昼休憩60分		
12:50 ～ 13:10	⑥非定常作業における確実なTBMの推進 日本製鉄(株) 安全防災推進部 部長 朱宮 徹	当社では非定常作業の安全確保のためTBMを重点施策として推進している。TBMは作業前に共同作業者とリスクと安全対策を確認することであるが、非定常作業は突発的に発生することも多く、その確実な実施は容易ではない。ここでは当社のTBM浸透についての模索を紹介する。
13:10 ～ 13:30	⑦新人安全担当によるKYT定着への道 (株)アステム 品質・安全課 主任 和久 智樹	弊社では以前よりKYTに取り組んでいたが、仕事の忙しさを理由に行われなくなり繁忙化に伴い労働災害も増加した。外部コンサルタントの力を借りて安全文化を再構築する中で私も安全推進を担当することとなり、改めて危険感受性を高める為に試行錯誤しながらKYT推進活動を行った。
13:30 ～ 13:50	⑧ヒヤリハット見える化、第三者行為に想像力を働かせ!安全に終わりは無い! 東急電鉄(株) 運輸部 自由が丘駅 主任駅務係 佐々木 雄也	ヒヤリハット情報の活性化。Forms活用で迅速な解析、駅構内図に写真付きヒヤリハットカードを貼り見える化の実現。メッセージボードを作成し、ゼロ災害の思いを記入一致団結! 想像力を働かせ、廊下に写真で危険のインパクトを与え、第三者行為の恐怖を意識付けさせた。
13:50～14:00 休憩		
14:00 ～ 14:20	⑨タイ研修生による、ひらがなKYT (株)東研サーモテック コーティング事業部三重 コーティング事業部 事業部長 北村 和也	金属熱処理会社のゼロ災運動を報告する。①コロナ禍でのKYT継続(A1判用紙で10分以内5人以下の少人数実施)、②タイ研修生チームを結成/タイ語を「ひらがなKYT」に変え日本人管理者がコメント/タイ研修生のKYTレベルUPと活性化、③タイ研修生チームによるKYT実技、を予定。
14:20 ～ 14:40	⑩潜在意識に刻み込む危険感受性向上の取り組み 日産自動車(株) 横浜工場 第一製造部 エンジン課 工長 井尻 祐也	安全は様々な安全活動を進めているが、災害の多い職種である。当課で過去に発生した災害の分析や他拠点での災害情報から、個人の危険感受性向上が必須であるとの結論に至った。全員でKYTを基礎から学び直し訓練を重ねる事で、全員の危険感受性向上につなげている内容を紹介する。
14:40 ～ 15:00	⑪危険予知の意識向上を目指した部門内KYスキル強化と実践～KYT選手権～ 第一工業製薬(株) 京都事業所 生産本部 生産管理部 生産企画グループ 課長 常本 和弘	労働災害発生件数ゼロを目指し種々取り組んでいるが、ゼロ災達成には多くの課題がある。 当社ではKYの強化が達成の鍵と考え、4ラウンド法の理解及び推進と、生産部門への浸透を図るべく全員参加型の企画を行い、正しいKY手法の浸透と危険予知の意識向上を図った。
15:00～15:10 休憩		
15:10 ～ 15:30	表彰式 ゼロ災運動表彰式 および新ゼロ災マーク表彰式	ゼロ災運動の普及、推進に積極的に取り組んでいる個人に対してゼロ災運動推進感謝状を贈呈する。 また、全国ゼロ災運動推進協議会が募集した、ゼロ災運動の標語及び危険予知訓練イラストシートの優秀作品への表彰と併せて、ゼロ災運動50年を期に募集した新ゼロ災マークの入選作品の表彰を行う。



ゼロ災運動分科会

15:30~15:40 休憩

15:40
~
16:40

講演

“孤”をつなぎ、“個”を活かす
職場へ ～職場でのユーモアと
心理的安全性の観点から～

筑波大学人間系心理学域・准教授
筑波大学働く人への心理支援開発研究
センター・リサーチユニットリーダー
藤 桂

職場での人間関係や従業員の孤独・孤立の問題が叫ばれる昨今、私達に必要なコミュニケーションとはどのようなものだろうか。本講演では職場での孤独感や心理的安全性の話題にも触れつつ、職場でのユーモアの効果に関する研究を紹介し、今後の職場のあり方について考察する。



労働衛生管理活動分科会

会場 JMSアステールプラザ 大ホール

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30
~
9:50

①熱中症ゼロへの取り組み

(株)日立製作所 笠戸事業所
安全衛生センタ安全衛生統括グループ
主任 深町 昇

毎年10名の熱中症発症者が発生していたが23年度遂にゼロを達成した。毎年の熱中症予防対策を取り組んだ内容(ウオーターサーバー、塩タブレット導入、熱中症予防教育→WBGT値管理導入→作業毎の基準を定め休憩基準作成、連休明けの熱中症予防週間等)を年表で紹介する。

9:50
~
10:10

②熱中症Literacyの向上にむけて (Part2)

～意識改革からの行動変容～

(一社)日本自動車工業会 安全衛生分科会 Bグループ
研究会委員(UDトラックス(株) 人事部
ヘルス&セイフティー マネージャー) 佐藤 衛

本研究会は関東圏自動車完成車メーカー7社で構成され、前年に続き熱中症をテーマに「暑熱順化」にフォーカスして研究を行ってきた。今回は「Part2」として各社のアンケートやデータ分析結果を基に、熱中症の低減につなげる活動内容について紹介する。

広島大会 書籍販売のご案内

注目の
新刊!!

リスクアセスメント対象物取扱い事業場のための化学物質の自律的な管理の基本とリスクアセスメント…定価1,320円

保護具着用管理責任者ハンドブック…定価1,320円

労働安全衛生規則の解説～化学物質の自律的な管理関係～…定価1,760円

働く人の快眠術…定価330円

職場で自然災害にあったら…定価330円

1割引で販売中だよ

図書・用品販売コーナー

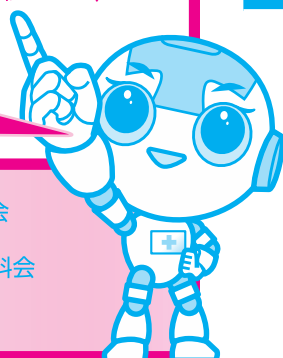
広島国際会議場地下2階 グラシア向かい
ぜひ販売コーナーにお立ち寄りください

著者講演

朱宮 徹氏「対話重視の安全パトロール 13のポイント」…11/14(木) 12:50～ ゼロ災運動分科会

柴田 圭氏「安全と健康11月号」…11/14(木) 15:40～ マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

中原 浩彦氏「安全衛生のひろば」連載…11/15(金) 13:00～ 化学物質管理活動分科会



ゼロ災

労働衛生管理



労働衛生管理活動分科会

10:10 ～ 10:40	特別報告 最近の労働衛生に関する動きについて 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長 佐々木 孝治	職場における労働衛生に関する課題は、昨今の労働者の高齢化や女性活躍等を受けて多様化してきている。こうした状況の変化が、産業保健活動に及ぼす影響や、昨年4月より進めてきた第14次労働災害防止計画の重点項目を中心に、労働衛生行政の現状を紹介する。
10:40～10:50 休憩		
10:50 ～ 11:10	③愛の卒煙支援 ～大事な財産である従業員の健康を守る～ KMバイオロジクス(株) 総務部 サステナビリティ推進課 保健師 宮田 真理子	喫煙者の健康的な生活習慣実現のため、KMB流「愛の卒煙支援」を推進。喫煙者の集い・社長のお手紙・従業員卒煙サポーターの設置等6つの施策を展開。2023年度敷地内禁煙も実施。喫煙率は2019年度11.7%→2022年度8.7%と着実に効果が得られている。
11:10 ～ 11:30	④空調3原則と気流シミュレーション～スポット空調からゾーン空調、そして全館空調へ～ マツダ(株) 本社工場 車体製造部 第1車体課 技術員 村上 憲史	車体工場には多くのロボットと溶接機があり、設備内からも発熱を起こしている。夏季には、工場内は外からの入熱を受け酷暑となっていた。これまでの場当りの暑熱対策から、空調シミュレーションを用いるプロセスを取入れ、空調3原則に基づき本質改善へとつなげた事例である。
11:30 ～ 11:50	⑤気流創出ファンを用いた溶接ヒュームの全体換気 テラル(株) 東京支社 ソリューション技術1部 空間技術課 東京グループ 松岡 史修	令和2年4月22日に実施された省令改正により、金属アーク溶接等作業を行う作業場において全体換気装置による換気等の措置が必要となった。当社は溶接工場において給排気設備と気流創出ファンを組み合わせた全体換気工事を実施し、工場内の溶接ヒューム濃度の低減が確認できた。
11:50～12:50 昼休憩60分		
12:50 ～ 14:20	企業における取り組みを進めよう!病気の治療と仕事の両立支援 挨拶 広島労働局 労働基準部長 木下 麻子 シンポジウム 第1部 基調講演「企業経営からみる治療と仕事の両立支援の必要性」 県立広島大学大学院 経営管理研究科 教授(広島県地域両立支援推進チーム有識者委員) 木谷 宏 第2部 パネルディスカッション「なぜ進まない治療と仕事の両立支援 課題を解消するための方策を探る」 座長 (独)労働者健康安全機構 中国労災病院治療就労両立支援センター 所長(広島県地域両立支援推進チーム有識者委員) 豊田 章宏 パネリスト 広島産業保健総合支援センター 産業保健専門職 寺村 清美 元(株)豊国エンジニアリング 管理部 小野塚 剛 (福)萌生会 理事長/(一社)あすなろ 代表理事 上田 美幸	
14:20～14:30 休憩		
14:30 ～ 14:50	⑥医療機関が併設されている大学における安全衛生管理体制の構築と発展的取り組みの紹介 順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス 健康安全推進センター 係員 長谷川 真由	各部署に委ねられていた化学物質管理等の安全衛生管理業務の一元管理体制を構築し、業務拡大を図る中で学内の認知度を広め、職場環境に問題があるとの訴えがあった部署等に対するコンサルテーションを担うまでに至る過去8年間の活動を発表する。



労働衛生管理活動分科会

14:50 ～ 15:10	⑦衛生監査を通じた衛生管理者の能力向上への取り組み 日本製鉄(株) 瀬戸内製鉄所 安全環境防災部 安全健康室 主幹 高川 勇貴	当社では各製鉄所に衛生スタッフを配置しているが、業務内容は個々の経験に依存する要素が大きい。そこで、衛生管理者として業務上押さえておくべきポイントを明確にするためのチェックシートを作成し、それをもとにした衛生業務監査を開始した。本報ではその一部を報告する。
15:10 ～ 15:30	⑧オリジナル空調ファン付き作業服の導入による熱中症対策 (株)デンソー 西尾製作所 安全衛生環境部 サイト・事業G室西尾安全衛生環境課 担当係長 東 久美子	職場の暑熱対策を進める中、工場内を広範囲に移動する作業員への熱中症予防が急務。空調ファン付き作業服等の市販アイテムを試す中、従業員から「風を感じるほうが嬉しい」「目立つものは着たくない」との意見。そこでメーカーと協力し、従業員に喜ばれるオリジナル空調ファン付き作業服を開発・導入した。
15:30～15:40 休憩		
15:40 ～ 16:00	⑨化学物質RA方法確立へ向けた取り組み ～他部署との信頼関係構築を通じて～ 東邦チタニウム(株) 若松工場 環境安全部 一般 富永 ありさ	化学物質管理の法改正に伴い、化学物質RAツールにてRAを実施する管理体制で運用を始めた。運用は各部署の協力が必須である。化学物質管理を担当する入社1年目の私自身をまずは知って頂くことから始め徐々に各作業場へ出向いた。信頼関係の構築を通じた取り組みを紹介する。
16:00 ～ 16:30	特別報告 衛生管理者に対するアンケート調査の結果を踏まえた今後の衛生管理者への支援について 全国衛生管理者協議会 副会長 (HOYA(株) 環境・安全衛生部 環境・安全衛生G 環境・安全衛生統括マネージャー) 神津 進	職場における産業保健の充実が求められる中、衛生管理者の役割の重要性が高まっている。 全国衛生管理者協議会では、昨年、衛生管理者の活動実態を把握するためのアンケート調査を行った。今回、その結果を報告すると共に、事業場の衛生管理者の活動に対する支援について提言する。



化学物質管理活動分科会

会場 JMSアステールプラザ 大ホール

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①マスクフィットテスト研修会の実施体制の構築と実践、その経験知の水平展開 (公社)神奈川労務安全衛生協会 労働衛生技術専門家会議 会議メンバー 伊藤 伸也	自律的化学物質管理へとシフトしていく中、呼吸用保護具の役割は一層重要となるが、わが国ではフィットテスト実施者を養成する体制は十分に整っていない。 全国的にも取り組み事例が少ない養成研修プログラムを当協会で議論を重ね構築し実践をしたので、そのプロセスを水平展開する。
9:50 ～ 10:10	②スマホアプリによる薬品管理の効率化 ～キューちゃん家に全員集合!～ JFEスチール(株) スチール研究所(福山地区) 表面処理研究部 技術員 阿川 ひとみ	従来の薬品管理はExcelシートで作成した台帳を用いているが、ここ数年で使用する薬品数が急激に増加し、薬品管理に費やす時間と手間が増加していた。そこで、ローコード開発を使用することで短期間でシステムの構築ができ、化学物質使用に際しての衛生管理に活用ができた。



化学物質管理活動分科会

10:10~10:20 休憩

10:20 ~ 10:50	特別報告 新たな化学物質規制の円滑な実施に向けて 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課長 土井 智史	令和6年4月より全面施行となった新たな化学物質管理規制においては、これら規制の対象外であった有害な化学物質を主な対象として、事業者がリスクアセスメントの結果に基づき、ばく露防止のための措置を適切に実施する制度を導入した。事業場で対応が求められる最近の化学物質管理規制について紹介する。
---------------------	---	--

10:50~11:00 休憩

11:00 ~ 11:20	③フィットテスト合格は現場の力から～実施から合格まで導いてくれた立役者たち～ (株)北川鉄工所 経営管理本部 安全・環境推進部 安全衛生管理課主任 長島 絵梨	フィットテスト実施者1名。離れた事業場がある中、全85名のフィットテストを実施する必要があった。実施に係る費用や時間、人手など様々な問題がある中、現場管理職や作業員、衛生管理者と一緒に問題をクリアし、スムーズにフィットテストを実施・合格することができた。
11:20 ~ 11:40	④実使用を想定した化学防護手袋の性能評価 (株)重松製作所 埼玉事業所 研究部 一般社員 上原 巧	化学防護手袋の耐透過性試験は、1枚の生地及び純粋な化学薬品を使うことが多い。しかし、実際の現場では2枚以上の化学防護手袋を重ねる又は薬品の混合物であることが多く、その公表データは少ない。今回、重ねた生地及び薬品の混合物に対する破過時間の変化を調査した。
11:40 ~ 12:00	⑤マスクフィットテスト実施体験 神戸西労働基準協会 マスクフィットテスト指導員 森川 淳	法令の改定により屋内で溶接作業を行う作業員に対する防じんマスクのフィットテスト (FT) が義務付けられた。FT実施に当たり受験者の理解を促し、FTを円滑に行うために行った工夫した点、得られた知見等を整理・公開することにより、今後のFT推進につなげる。

12:00~13:00 昼休憩60分

13:00 ~ 13:30	特別報告 化学物質の自律的管理の仕組み構築と化学物質管理者への期待 NAOSHコンサルティング 代表 中原 浩彦	自律管理による化学物質管理においては、規制内容を確実に実施する「法令遵守型管理」から、状況に応じて自ら考え判断する「リスク対応型管理」への発想転換が求められる。そのための「仕組み作り」と、その枠組み内での化学物質管理者に対する役割や期待を考えたい。
---------------------	---	--

13:30~13:40 休憩

13:40 ~ 15:10	パネルディスカッション 化学物質の自律的管理 化学物質管理者の活躍に向けて パネリスト 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 課長補佐 吉岡 健一 武田薬品工業(株) 光工場 EHS室 環境／産業衛生リード 荒木 賀洋 マツダ(株) 安全健康防災推進部 産業医 奈良井 理恵 中央労働災害防止協会 中国四国安全衛生サービスセンター 副所長 高橋 淳 兼 労働衛生調査分析センター 衛生管理士・化学物質管理専門家・作業環境管理専門家 コメンテーター NAOSHコンサルティング代表 中原 浩彦 モデレーター 中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 所長 川本 俊弘 令和6年4月から化学物質管理者の選任が義務化された。事業場において化学物質管理者が実施する業務、困っていること、産業医との連携、外部機関の支援等について話し合い、化学物質管理者が活躍するにはどうしたらいいか、について探る。
---------------------	--



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

会場 広島国際会議場 フェニックスホール

11月14日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	①肥満者率の高いバス会社での体重入力フォームを用いた体重管理の取り組み 名鉄バス(株) 人事部 人事課 保健師 栗木 朋美	バスの乗務員は不規則勤務であることや活動量が少ないこともあり、肥満者が多い傾向にある。肥満は生活習慣病のみならず睡眠時無呼吸症候群のリスクとなる。肥満対策として体重測定の回数を見える化するため、体重入力フォームを活用した。取り組み内容と結果を報告する。
9:50 ~ 10:10	②コミュニケーションスタイル変化に応じたストレス耐性向上活動 トヨタ自動車九州(株) 安全健康管理部ヘルスケアセンター 主事 石川 和美	コロナ禍を経た多様性を求められる時代で、コミュニケーションスタイルが変わっていく中、どうしたら個人のいきいき度が上がり元気でいきいきと仕事をしてもらう事ができるのかを、従業員や職場に寄り添って考えたストレス耐性向上活動を報告する。
10:10~10:20 休憩		
10:20 ~ 10:40	③職場で楽しく健康づくりをしよう! ~ベジチェック測定大作戦~ JFEスチール(株) 東日本製鉄所(千葉地区) 安全健康室 保健師 表 美賀子	当事業所では、肥満・喫煙・メンタルの3本柱で健康づくり活動を展開している。社員がやらされ感で実行するのではなく、自分事として主体的に健康づくり活動に取り組むためのきっかけづくりとして、ベジチェックを活用して職場を巻き込んだ活動を推進したので報告する。
10:40 ~ 11:00	④従業員の睡眠改善に向けた支援について 中部電力(株) 本店 安全健康推進室 健康増進グループ 保健師 山口 香織	当社従業員の問診結果では、1人あたり平均睡眠時間が全国平均を下回っている。質・量の良い睡眠は、本人の健康リスクの低減のみならず、生産性の向上や労働災害の防止にも寄与することから、睡眠の改善支援状況について報告する。
11:00~11:10 休憩		
11:10 ~ 11:30	⑤健康サポートアプリを活用した、自主的な行動変容をベースにした健康づくり 三菱電線工業(株) 管理部 総務・人事室 保健師 早野 恵子	健康サポートアプリを活用した、自主的な行動変容をベースにした健康づくりを進めた。アプリ導入やその後のイベント開催時の工夫がどのようにアプリ導入利用率、ウォーキングイベント参加率に影響したか。そして歩数の増加と、健診結果への影響について報告する。
11:30 ~ 12:00	特別報告 イームルカルチャーを創る!社員主役の独自制度 イームル工業(株) 代表取締役社長 山口 克昌	小水力発電を生業として設立77周年。企業理念「水を愛し、無限の水エネルギーを利用して、地球環境を守り、地域社会を豊かにする」ため、自らが楽しく、そして愛せる会社づくりを目的とした、社員主役の独自制度や心地よく働き、会話する憩いのスペースなどの事例を紹介する。
12:00~13:00 昼休憩60分		
13:00 ~ 13:20	⑥全従業員参加のウォーキングイベント「みんなでウォーキング」13年間の活動報告 (医) こうかん会 水江診療所 京浜保健センター 保健看護科 主任 福地 知亜紀	2011年から13年間、運動実施のきっかけづくりとして、全従業員参加のウォーキングイベントを実施した。部署・個人集計、ポスター・個人結果通知の作成、各部署の自主活動のまとめ、部署表彰等を実施。従業員の参加意欲向上やウォーキングの習慣化につながるよう工夫した。



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

13:20 ～ 13:40	⑦自主的な健康行動を促すポピュレーションアプローチによる職場の健康づくり活動 北海道電力ネットワーク(株) 道東統括支店 業務部企画総務グループ 健康相談室 保健師 高木 暁美	ハイリスク群以外の実施率が低かった生活習慣の改善活動を、職場の健康づくり活動としてポピュレーションアプローチした結果、自主健康行動を促し、健診結果の改善につながった。自分で守る健康からみんなでつくる健康へ、組織活動と協働した従業員の健康行動支援を考察した。
13:40 ～ 14:00	⑧従業員の困りごとに寄り添った女性健康課題への取り組み トヨタ自動車(株) 安全健康推進部 一般 粕谷 ゆかり	ダイバーシティ推進に伴う女性比率増加の中で、特に生産関係職場において女性の健康課題に関連した困りごとの声が増えている。誰もがいきいきと働きやすい職場づくりを最終目標とし、女性の健康に関する職場環境改善やヘルスリテラシー向上に向けた取り組みについて報告する。
14:00～14:10 休憩		
14:10 ～ 14:30	⑨事業所における職場改善プロジェクト「Be the Player」の取り組み (株) ソディック 人事部 労務管理課 保健師 黒本 知佳	製造業特有のトップダウン文化が残る企業において、保健師と人事・総務スタッフらが連携し、立候補制で実施した職場改善活動「Be the Player」(全6回・約8か月間)の、企画から実施の各プロセスにおける苦労や工夫、実際の取り組み成果などを報告する。
14:30 ～ 14:50	⑩大規模事業場における喫煙対策の取り組みと課題 日本製鉄(株) 名古屋製鉄所 安全環境防災部 安全健康室 衛生・健康推進課 保健師 大鍋 桃子	当事業場では2020年頃から喫煙率は下げ止まり上昇に転じていた。喫煙率の低減に向けて禁煙チャレンジを促進するため、効果的な情報発信と利用者が参加しやすいプログラムを展開し一定の効果が発揮されつつあるため、具体的取り組みと今後の課題と展望について紹介する。
14:50 ～ 15:10	⑪全社員人間ドック受診と保健師面談による精密検査受診率向上の取り組みについて 名鉄協商(株) 人事部 主任(保健師) 岩田 歩子	保健師による全社員を対象とした対面での人間ドック結果説明を実施した。全体のうち30.2%が「受診推奨」であり、うち47.1%が人間ドック後に受診した。2022年の精密検査受診率は36.4%であり保健師の介入により精密検査受診率が大幅に改善した($p<0.05$)。
15:10 ～ 15:30	⑫鉄道会社の「融合」と「連携」で取り組む健康経営の実施について 東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社 盛岡統括センター 乗務ユニット 係員 夏坂 迅	生産性の向上と私生活の充実には健康が不可欠である。健康経営のさらなる推進を目指し「職場や社員の健康意識に合わせた情報提供」「健康チェックイベントの実施」「ウォーキングイベントの活性化」等、乗務員に限定しないあらゆる社員の健康意識を向上するための取り組みを実施した。
15:30～15:40 休憩		
15:40 ～ 16:40	講 演 これからの転倒防止・腰痛予防対策 聖マリアンナ医科大学 予防医学教室 主任教授 高田 礼子	14次防では転倒災害防止は事業者が取り組むアウトプット指標にされており、腰痛予防は事業者が「職場における腰痛予防対策指針」を参考に取り組むことになっている。 そこで転倒防止・腰痛予防対策の在り方に関する検討会(厚生労働省)の座長から、今後の転倒防止・腰痛予防対策について紹介する。

11月15日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑬健康経営のKPI・KGI達成にむけて事業場で実践した活動内容について パナソニックインダストリー(株) 西門真 総務部 西門真安全衛生課 社員 林 恵子	当社では「働きながら健康になれる職場づくり」を目指した戦略マップを作成し取り組みを行っている。KPIを適正習慣5項目(運動・食事・睡眠・禁煙・飲酒)に設定し、達成に向けた活動を行っている。西門真事業場で実践しているそれらの活動の取り組み内容について報告をする。
-------------------	---	--



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

9:50 ～ 10:10	⑭鉄道事業者における惨事ストレスケア体制の構築を目指して 東日本旅客鉄道(株) 千葉健康推進センター 主任 廣田 希	2016年に人身事故に遭遇した駅社員へのケアをはじめた当初はJR社員に特化した対策例などはなく、何からはじめたらよいかわからず苦勞した。取り組みを続ける中で惨事ストレスを知り、JR社員に特化したオリジナルとして惨事ストレス対策マニュアルを作成するに至った。
10:10 ～ 10:30	⑮ICTを活用した特定保健指導の取り組みについて NTT西日本 健康管理センタ 中国エリア担当 一般社員(保健師) 土居 夕莉	特定保健指導もICTでの実施が定着しつつある。ICT面談を標準化し、指導効果は対面面談と同等であり、申し込み方法の違い(会社一括か自主的)による差はなかった。また保健師のアンケート結果により今後のICT面談法を充実し、さらなる生活習慣病重症化予防に役立てる。
10:30～10:40 休憩		
10:40 ～ 12:10	鼎談 心理的安全性が高い職場とは? ～職場環境UPの秘訣を探る～ (一財) 淳風会 代表理事 理事長 東京大学 大学院 医学系研究科 社会連携講座 デジタルメンタルヘルス講座 特任教授 川上 憲人 (株) カインズ コーポレートサポート本部 本部長兼くみまち渉外責任者 リスクマネジメント委員会 委員長/店舗安全対策委員会 委員長 植木 俊行 (株) 浅野製版所 事業開発部 部長 兼 健康経営推進チーム 新佐 絵吏	心理的安全性が高い職場は、組織内で自分の意見を安心して話せる環境が整っているといわれている。そこで、職場環境を良くするには心理的安全性を高めることが重要な要素なのか、心理的安全性を高めるにはどうするか、職場環境をよくするにはどうするか等を、それぞれの立場から語っていただく。
12:10～13:10 昼休憩60分		
13:10 ～ 13:30	⑯自分の健康に関心を持とう! YouTubeを活用した「社員向け健康増進動画配信」 住友重機械工業(株) 愛媛製造所 西条工場 健康相談室 保健師 川中 康子	社員のヘルスリテラシーを高めるためのファーストステップとして、自身の健康づくりに関心を持ってもらうため健診結果や時節の話題性等を反映した“社員向けYouTube”を栄養士と保健師の専門性を活かして月1回配信している。現在に至るまでの取り組みや工夫点を報告する。
13:30 ～ 13:50	⑰100人職場の健康経営の進め方「会社に行って元気になろう」 ダイソーケミックス(株) 技術開発センター 開発管理グループ 看護師 安養寺 美貴	これまで産業看護職中心に、立ち話面談のような従業員に寄り添った「100人規模の健康経営」を進めてきたが、昨年4月に「健康経営推進委員会」という全社縦断組織ができ、一気に活動が強力に進められるようになった。現状と今後の進め方を紹介する。
13:50 ～ 14:10	⑱岡山 健康経営®を考える会の活動について ～労働衛生機関による中小企業の健康経営支援～ (一財) 淳風会 淳風会健康管理センター 理事 稲岡 美穂	弊会はホワイト500を7年連続で認定いただいている総合労働衛生機関である。その経験やノウハウを生かして健康経営のサポート事業を行っており、2023年2月に発起企業4社とともに「岡山健康経営を考える会」を立ち上げた。考える会の具体的な活動内容について発表する。
14:10 ～ 14:30	⑲当社におけるコラボヘルスの取り組み 中国電力(株) 人材活性化部門 安全健康推進グループ 担当副長(保健師) 愛谷 和美	当社は、従来から社内産業保健スタッフによる特定保健指導の実施や健康教育等、健康保険組合と連携した取り組みを行ってきた。2023年からは、ウォーキングラリー等の健康イベントを共同開催し、コラボヘルスの推進に取り組んでいる。取り組みの概要や課題等について紹介する。
14:30～14:40 休憩		
14:40 ～ 15:40	講演 これからの人生をリデザインしよう ～メンタルヘルス、キャリアの統合の観点から～ 法政大学 キャリアデザイン学部 教授 廣川 進	仕事に没頭してキャリアを積んできたが、ふと気づくと仕事、家庭、自己の全体にわたる中年危機を迎え、モチベーション低下やメンタルヘルス問題にまでつながっている50代以降の労働者が増加している。“これからの自分”をデザインし直すには何をしたらよいか、メンタルヘルスとキャリアの統合の観点から述べる。